



福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

〒960-1295 福島市光が丘1番地 / TEL (024) 547-1111 ホームページ <http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php>

患者サポートセンターを開設しました

患者サポートセンター

平成29年4月より、患者さんのサポートを充実させるため、地域連携部を核に、医療連携・相談室を組織的に取り込み、新しい組織名を「患者サポートセンター」といたしました。

患者サポートセンターでは、患者さんが入院する前から看護師等による入院前面談を実施し、患者さんが安心して医療を受けられるよう患者さんの状態を身体的・精神的・社会的背景から把握し、入院前から退院後をも見据えた支援を行っています。

また、主に各診療科や病棟が行っていたベッド運用を、患者サポートセンターが一元管理することになりました。一元化して管理するベッド運用により、診療科を超えた空床の活用や多職種と連携がとれるような迅速なベッド運用を行い、患者さんの治療が遅延なく行われるように取り組んでいます。

このようなセンターの新たな体制の充実に加え、これまでの患者相談や地域連携業務を一体化させることで、さらなる患者支援の充実を図り、医療従事者、患者さんとその家族がともに手を携えて治療を行えるよう、よりよい医療を構築していこうと努力を重ねています。



当院での肉・魚の調理について

栄養管理部

「患者さんには食事をおいしく、楽しく食べてもらいたい」栄養管理部の職員は皆そう思っています。

エネルギーや栄養素、献立の教育効果など大切なことはいろいろあります。多くの制約の中で、当院の調理師はきれいでおいしい！を目指し365日毎日一生懸命に調理しています。

しかしながら、その素材特有のパスつき、食中毒をおこさないための厳しい温度管理などによって「肉、魚がパサパサして食べにくい！」という意見が寄せられることがたびたびありました。焼く温度や時間など調理の工夫ではなかなか解決しない問題でした。

そこでこの度、当院では「やわらかアップ」という肉、魚をやわらかく、ジューシーにする調味料の使用を始め

ました。

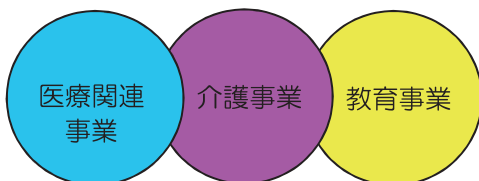
どの素材には何%で何時間浸漬すれば一番患者さんのところに届く頃おいしくなるか、食べやすいと思ってもらえるか、いろいろ工夫をしながら試行錯誤しています。

患者さんに笑顔でおいしかったよ、とってもらえる日を目指し、これからも努力していきます。皆さま、これからもいろいろなご意見をお寄せください。

第39号のなかみ

- 1ページ…… ○患者サポートセンターを開設しました
○当院での肉・魚の調理について
- 2ページ…… ○手術室棟がオープンしました
- 3ページ…… ○NST(栄養サポートチーム)活動について
○高校生1日看護体験
- 4ページ…… ○胃がんの原因であるピロリ菌について注意すること

全国展開するニチイの3つの事業



株式会社 ニチイ学館

福島市栄町6-6 UNIXビル3F
Tel 024-524-2835 Fax 024-522-0306

マチのほっとステーション

LAWSON

ローソン福島県立医科大学附属病院店 (エレベーターホール隣)
ローソン福島県立医科大学店 (7号館内)
ローソン福島県立医科大学会津医療センター店

平成29年7月末にきぼう棟とみらい棟の間に手術室棟を増築しました。本棟は4階建てとなっており、4階の機械室を除く1～3階までのフロアを活用します。1階には心身医療科外来がきぼう棟から移転し、2階には術前診察室、外来回復室のほか手術部長室、麻酔科控室などを新設しました。そして3階にはハイブリッド手術室、MRI手術室（撮影室含）、バイオクリーン（BCR）手術室の3つのオペ室に加え、検体処理室と手術器材室を設け、手術室の強化を図りました。

本棟の特長の1つには、最新鋭の設備とシステムを備えたオペ室にあります。それぞれオペ室の特長を紹介します。



【ハイブリッド手術室の特長】

血管撮影装置と手術台を統合させたもので、高画質の透視、3D撮影が可能となり、カテーテルを用いる内科的治療と外科手術を同時に行うことが可能。心房中隔欠損症に対する経カテーテル的閉鎖術、胸腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療、経カテーテル大動脈弁置換術など、治療領域は多岐にわたります。今回導入した血管撮影装置は目的部位を同時に多方向から観察できる「バイプレーン型」で、正確な治療を行うことができ、東北地方では初の導入となります。



【MRI手術室の特長】

3テスラの超高磁場MRIと高機能ナビゲーションシステムを備え、高度の情報統合を可能とした世界でも有数のインテリジェント手術室。超高磁場システムを備えた手術室は東北地方で初めてです。術中に脳内の状況を高精画像で評価することが可能であり、さらに術中に取得した最新画像に基づいて、信頼性の高いナビゲーションにより、通常の設定の手術室に比べて、手術の正確性と安全性が飛躍的に高まると期待されます。



【BCR手術室の特長】

BCR手術室とは、空気中の粉塵や細菌を高性能のフィルターで少なくした空気環境を整えた手術室で、人工関節の手術や脊椎の金属インプラントを多く入れる手術、その他手術部位の感染症を避けたい手術などに活用します。本院では平成28年4月に整形外科に人工関節センターを設立したことから、本室の積極的な活用に期待が持てます。



一方、1階には心身医療科を移転しましたが、これまで6室だった診察室を9室に増設しました。また、震災以降増えている子どものこころ疾患に対応すべく、児童思春期診察室を3室新設し、子どもの健康を見守り続けていくこととなります。



近年、食や栄養について様々な情報が得られるようになり、自分自身の栄養について考え健康を保持できる時代となりました。患者さまにおいては良好な栄養状態を保つこと・栄養障害の改善が治療効果の向上だけでなく、合併症の予防や QOL (Quality Of Life : 生活の質) の維持・向上にも大きく関わってきます。当院では、管理栄養士が患者さまの栄養について考え食事を提供しています。しかし、複雑な病気に対しては多職種の見点から栄養状態の評価を行い、適切な栄養療法を提供することが必要です。当院には栄養についての研修を終えた専

門の医師・看護師・薬剤師・検査技師・言語聴覚士・管理栄養士がチームとなり、患者さまの栄養をサポートしていく NST (Nutrition Support Team : 栄養サポートチーム) があります。栄養障害をお持ちの患者さまについて主治医より NST へ依頼があった際、栄養状態についての検討会を行い、最適な栄養療法を提案しています。

入院患者さまの栄養状態について、ご自身やご家族のみなさまで不安をお持ちの際には、担当の医師、看護師、栄養士までお気軽にお声がけください。



高校生 1 日看護体験

看護部 渡邊美恵子

毎年、福島県看護協会では、「看護体験」を通して、「看護の仕事は人々の生命を守る大切な仕事であることの理解を深め、看護に対するイメージを持つことにより、看護への関心を高める」を目的に、高校生の 1 日看護体験事業を行っています。看護部では当院での看護体験を希望した県内の高校 1・2・3 年生 17 名を受け入れました。午前中は、病棟で看護師とともに看護ケアの見学や移送などを体験しました。また、日ごろ疑問に思っていることなどについて看護師に熱心に質問している姿がありました。

午後からは、ヘリポートを見学し、フライトナース、パイロットの方から仕事の内容などの説明を受けました。

また、普段では経験できないヘリコプターへの搭乗や、フライトナースが現場に向かう時の背負うリュックを背負わせてもらうなどの体験をしてもらいました。

最後に今回参加した高校生同士、病棟看護師と意見交換を行いました。そこでは、「ますます看護師になりたい」、「患者さんから言葉をかけてもらいうれしかった」、「やりがいを感じた」などの感想が聞かれました。短い時間ではありましたが、高校生にとって貴重な体験になったと同時に、将来仲間になるかもしれない高校生たちをととても頼もしく感じました。





胃がんの原因であるピロリ菌について注意すること

～感染時期と感染経路をふまえて

現在、日本では年間で約12万人が胃がんにかかり、約5万人が胃がんで亡くなっています。この胃がんの原因のほとんどが、ピロリ菌です。したがって、胃がんを予防するためには、敵であるピロリ菌対策を行うことが大切であり、ピロリ菌の感染時期と感染経路を知らなくてはなりません。

感染時期は、乳幼児期であり、成人になってから感染することは稀です。乳幼児期は、胃酸を分泌する胃の細胞（壁細胞と言います）が十分機能していないため、胃内に酸が充満していません。そのために、本来胃酸が嫌いなピロリ菌が胃内で生存できることになり、退治をしない限り、永久に住み着くこととなります。また、ピロリ菌にも遺伝子が異なる様々なタイプがあるのですが、家族間（特に母親と子供）でピロリ菌のタイプが一致することから、乳幼児期に両親からの何らかの影響でピロリ菌感染が生じると考えられています。

しかし、ピロリ菌の感染経路は、残念なことによく分かっていません。口から胃に入り込んでくることは容易に想像できますが、少なくとも食べ物から感染するわけではありません。上下水道の整備とともにピロリ菌の感染率が低下していることから、汚染された水が原因である可能性があります（以前言われていた井戸水からの感染は否定的です）。実際、生まれた年代で見ると、1950年以前生まれの方のピロリ菌感染率は40%以上であるのに対し、1970年代生まれで20%、1980年代生まれで12%です。このように、ピロリ菌の感染経路は、乳幼児期に一番身近にいる方（両親が多い）との関係と生活環境が影響していることは確かであるようです。

ピロリ菌に関して注意することは、胃がんの発生が増加してくる50歳代の前に検診などで内視鏡検査を受け

内視鏡診療部 部長 引地拓人

て、胃がんがないかと同時に、ピロリ菌がいるかどうかを調べてもらうことです。内視鏡検査での胃の見え方だけでピロリ菌がいるかが推測できますし、見え方で判断しにくい場合でも、血液検査や呼吸検査などでピロリ菌を調べることができます。その上で、ピロリ菌に感染していれば、1週間薬を飲むだけの治療で退治することができます。いったんピロリ菌を退治できれば、再度感染する心配はほとんどありません。また、除菌治療を受けてピロリ菌を退治することで、胃がんになることを予防できる可能性があります（ただ、胃がんにならないわけではありません）。また、ピロリ菌の感染時期は乳幼児期であることから、結婚前にはピロリ菌を調べて、感染があれば退治することが望ましいと思います。皆さん自身の胃がん予防と共に、皆さんの子供へピロリ菌を感染させないことにもつながります。



すべてを地域のために

東邦銀行

ご利用・お問い合わせは **福島医大病院支店**

窓口営業時間：平日午前9時から午後3時

電話 024-548-5331（受付時間：平日午前9時から午後5時）

スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時～20時
土日祝 9時～19時

アメリカシアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやペストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

